２０２１年度　医学部医学科卒業式　　学　長　式　辞

本日 東京医科歯科大学医学部医学科を卒業される皆さん ご卒業 誠におめでとうございます。

コロナウイルス感染症の影響により、授業のオンライン化をはじめ、様々な行事の中止などを余儀なくされ、皆さんにとって予期しない学生生活となったことと思います。

皆さんは、臨床実習が感染拡大の時期と重なり、多大な不便を被られたと思います。また、国家試験の受験に際しても感染への細心の配慮が求められ、精神的な負担も大きかったと思います。

皆さんが困難を乗り越えてここに晴れの卒業式を迎えられたこと、列席の役員、学部長をはじめとする教職員一同　心からお祝い申し上げます。

また、本日は感染対策のため会場にお招きすることは叶いませんでしたが、入学以来 ご支援を頂いたご家族・関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

この卒業式という最後の場を借りて、皆さんに勧めたいことが三つあります。

第一は、世のため人のために働くということです。コロナウイルス感染の診療とそれ以外を両立させることは大変でしたが、本学の行動には社会から高い評価と多くの支援を頂くことが出来ました。

もちろん価値観は人によります。しかしながら、わたしたちの仕事は本質的に社会と関わりが強い仕事であることを、このコロナ対応は再認識させてくれました。この認識を大切にすることが後悔しない人生に繋がるのではないかと思います。

次に勧めたいことは、世のため人のため　とは逆説的ですが　自分を守る　ということです。本学が最も多くのコロナの重症患者を受け入れることが出来たのは、長期戦を乗り越えてきたからです。　「力を合せて患者と仲間たちをコロナから守る」という合言葉に象徴されるように　自分たちを守ることが患者さんを守る必要条件だと考え、定期的なPCR検査やメンタルサポートを行ってきました。

皆さんも、患者中心にと考える余り　ややもすれば自分や自分の身の回りの人を犠牲にしないようにしてください。これは私自身の反省も踏まえてのお勧めです。

最後は、責めるより応援する　ということです。コロナウイルスへの対応は誰も経験がありませんでした。患者の受入れを始めてみると、予想外のことの連続であちらこちらで衝突がおこりました。そこで「責めるより応援しよう」という第二の合言葉を創りました。これにより随分生産的に物事が進むようになったと思います。これはお互いを責めるより応援しようというのが本来の趣旨です。

皆さんは、医学科では最上級学年であっても、四月からは社会人1年生です。当面は、自分でも「不甲斐ない」と思うことが多いのではないかと思います。コロナ対応に似ていますが皆さんの場合は、まず「自分を責めるより　自分を応援する」ことが大切なのです。

以上三つ、世のため人のために働く、自分を守る、責めるより応援する　を心に刻んでこれから精進して幸せな人生を築いていってください。

ウクライナで戦争が行われ、多くの犠牲者が出て、欧州のみならず全世界に大きな衝撃を与えました。コロナウイルスのパンデミックと併せて、私たちは歴史の転換点にいます。

世界はこれからさらに大きく変化していくでしょう。皆さんにとって、東京医科歯科大学は母校です。母校とは、母港、母なる港でもあります。船は母港で整備を終えて長い航海に出ていき、次の航海に備えるために母港に戻ってきます。変化の激しい今後は、母港に戻り「学びなおし」次の航海に備えるということも当たり前になるかもしれません。

その母港にいる教職員一同、皆さんの幸せな将来を祈念しつつ、お祝いの言葉と致します。本日は誠におめでとうございます。

２０２２年3月１８日

東京医科歯科大学　学長　田中　雄二郎